

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2373600168
法人名	社会福祉法人 サンライフ
事業所名	グループホーム ジョイフル江南
訪問調査日	平成19年12月18日
評価確定日	平成20年1月24日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
**[取り組みの事実]**  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
**[取り組みを期待したい項目]**  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
**[取り組みを期待したい内容]**  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月24日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2373600168
法人名	社会福祉法人 サンライフ
事業所名	グループホーム ジョイフル江南
所在地	江南市河野町五十間24番地 (電話) 0587-52-3123

評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年12月18日	評価確定日	平成20年1月24日

## 【情報提供票より】(平成19年11月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	11年10月1日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.5人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	16,058 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

### (4) 利用者の概要(平成19年11月20日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	5名		
要介護3	0名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低 76歳	最高	92歳	
協力医療機関名	愛知厚生農業共同組合連合会 昭和病院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街化調整区域で同法人の福祉施設に囲まれた静かな環境の中にある。「安心・自由・尊厳・歓び」を理念に掲げ、縛られない自由な生活を提供できるよう配慮している。「生活の中でのりハビリ」を念頭に置き、買い物や調理、草むしり、掃除、裁縫、編み物などを組み入れ、本人のできることを本人のペースで楽しんで行ってもらえるよう支援している。残された機能を大切に活かした生活に取り組む中で、開所してから現在までの8年間に退居した人は3名しかいない。月1回の「ふれあい教室」に参加しており、10月には中学校や社会福祉協議会、ボランティアコーディネーター、校長先生を交えて話し合い、小学校の入学式のために小学生と入居者、職員と一緒にパンジーの花を植え、水やりをするなど地域の方とのふれあい交流がされている。幼稚園の敬老会にも参加し、中庭にある畑の野菜の収穫、花の水やり、鯉のエサやり散歩などは入居者自身で判断してもらえるように配慮している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 誤飲を防ぐために洗剤などのストックの保管場所は入居者の手の届かない所に置いている。包丁などの危険物は、夜間は鍵がかかる場所に保管するなど改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サーブス評価を実施するに当たり、パート職員を含め全職員で取り組んだ。ワーカー会議の中で話し合い、この評価によって自分が思っていたことや職員同士でのお互いの気づきが分かり、書くことによって再確認することができるなど向上につなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議の参加者は、江南市役所健康福祉部長寿介護保険課職員、地域代表、家族代表、入居者代表、グループホーム管理者、ハウスマネージャー、職員で構成されており、メンバーには積極的に呼びかけている。内容は事故についての報告、行事報告、地域の関わり、インフルエンザの注意などであり、活発な意見や質問がだされている。次回は評価の報告をする予定である。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 相談窓口は、重要事項説明書の中に設定されている。運営推進会議や行事後に家族同士で意見交換会を実施している。家族の意見や不満、苦情などについては、申し送りノートに明記され、ワーカー会議の時に検討され全職員が把握し、家族には電話で報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に参加し、地域合同の納涼祭、運動会にも参加している。地域の小学校の運動会へも観覧などの行事に合わせて出向いている。ホームとして地域版グループホームだよりを発行し、回覧板でホームの行事を知らせるなど、地域の人々との交流に積極的に取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念と共に、入居者と家族と職員と一緒に「安心・自由・尊厳・喜び」をホーム独自の理念に掲げている。家庭的な雰囲気の中で残存能力を活かすように自立支援を行い、共に学び合っている。地域活動には積極的に取り組み、地域の中でその人らしく暮らそうと努力されている。		法人の理念やグループホーム独自の理念があり、職員への理念の意識づけがされている。地域活動に積極的に取り組んでおり、地域に密着している。今後はホーム独自の理念の中にも地域との関わりについて表現されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はフロアや事務所に掲示している。法人の理念とグループホームの理念を毎朝唱和し確認している。年1回、理事長が職員に理念の話しをしており、職員は家庭的に入居者一人ひとりに人間として人生の価値観の声を聴きながら、日々のサービスの提供に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域合同の納涼祭や運動会にも参加している。地域の小学校の運動会への観覧などの行事に合わせて出向いている。ホームとして、地域版グループホームだよりを発行し回覧板でホームの行事を知らせるなど地元の人々との交流に積極的に取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価を実施するに当たり、パート職員を含め全職員で取り組んだ。ワーカー会議の中で話し合い、この評価によって自分が思っていたことや職員同士でのお互いの気づきが分かり、書くことによって再確認することができるなど向上につなげている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の参加者は、江南市役所健康福祉部長寿介護保険課職員、地域代表、家族代表、入居者代表、グループホーム管理者、ハウスマネージャー、職員で構成されており、メンバーには積極的に呼びかけている。内容は事故についての報告、行事報告、地域の関わり、インフルエンザの注意などであり、活発な意見や質問がだされている。次回は評価の報告をする予定である。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市役所の長寿介護福祉課にこまめに顔を出しており、ホームだよりを持っていき、ホームの考え方や実態など、積極的に情報提供をしている。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>入居者の日頃の暮らしぶりや健康状態をホームだよりで報告している。健康面は、家族に個人記録を見ながらきめ細かく連絡している。金銭管理は家族が面会した時に説明し、確認印を押してもらっている。面会に来れない方には、請求書のコピーをホームだよりと一緒に郵送している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口は、重要事項説明書の中に設定されている。運営推進会議や行事後に家族同士で意見交換会を実施している。家族の意見や不満、苦情などについては、申し送りノートに明記され、ワーカー会議の時に検討され全職員が把握し、家族には電話で報告している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動があった場合は、早い段階で新しい職員を受け入れ、約1カ月間新しい職員への引き継ぎをしながら研修をしている。入居者が不安になった時は、馴染みの職員が1対1で散歩に行くなど、対応に工夫している。新人職員が夜勤に入る時は2～3回馴染みの職員が付き添い、入居者にダメージを与えないよう配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会にはパートの職員もチームの一人として参加している。管理者、職員には段階的に研修が実施され、教育報告書のレポートを提出しワーカー会議で報告している。全職員に研修内容をコピーしたり、閲覧するなど、情報を共有するよう配慮している。グループホーム内で勉強会を実施しており、毎月順番に職員が講師になっている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回、法人内のグループホーム6施設との交換研修にハウスマネージャーが参加している。毎月の取り組みの発表など、取り入れたいこと検討している。それをワーカー会議の時に、職員に伝達している。欠席の職員には資料を閲覧し、確認印を押し全職員で共有し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、体験入居や見学などを実施している。体験入居では、本人の身の回りの物を持ってきてもらい、事細かく記録を取り家族に伝えることでグループホームでの様子がイメージでき、家族にも安心したうえで入居できる配慮を行っている。心理的に不安を抱える方には、職員が1対1でじっくり接し「本人の安心と納得を大切に」を心がける配慮がされている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全職員は、入居者のアセスメントから入居前の状況を把握している。洗濯物干しや縫物、調理(魚を刺身にする)、編み物など、入居者の得意分野から生活の知恵を学ぶ関係を築いている。職員は日常生活の中で、協調性や気持ちをコントロールする自制心について、人生の先輩である入居者から学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや希望は、日々の関わりの中で職員が声をかけながら聞き取り、希望に沿って援助している。入居者の日々の何気ない言葉や言葉にしづらいことを「つぶやき」として職員がひろいあげ、ワーカー会議の時に、入居者の要望や不満を話し、全職員で入居者の視点に立って話し合っている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員1名が入居者2名を受け持つ担当制で実施されている。月1回のカンファレンスの時に、担当者は入居者がより良く暮らすための問題や課題について他の職員からも意見を聞き取っている。入居者本人や家族も参加してもらい、要望を聴き計画作成担当者が介護計画に反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しは通常3カ月毎に行っている。状態に変化があったり、毎月一人ひとりの居室担当の職員から問題点などを出し合い、カンファレンス会議で検討し、見直しが必要とされれば臨機応変に計画の追加や変更を行っている。家族には提示して説明し承認を得ている。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制をとっており身体機能、栄養面については法人内の嘱託医、看護師、管理栄養士等の専門家の協力を得ている。終末期医療、重度化した場合については入居時に指針を示し同意を得ている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>定期的な受診は家族の協力の下、かかりつけ医で受診している。受診結果、薬の処方などは家族より報告を受けている。不明な点があればかかりつけ医に連絡し確認をとるようにしている。急変時には法人内の医師の診察を受けている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>終末期、重度化における指針を示し入居時に説明をし、理解を得ている。ホーム内での生活が困難と思われる場合には早めに家族と相談し、法人内の施設を紹介するよう配慮している。</p>		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>全職員を対象にプライバシーマークの勉強会を実施し、個々の尊厳を守れるよう徹底している。ホーム内に写真などを掲示する際も必ず本人、家族の了承を得たうえで掲示するようにしている。日々の生活の中においても本人を傷つけてしまわないような言葉かけや対応に配慮している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人ひとりのペースに沿ってゆったりした生活ができるように支援している。起床時間、食事の時間なども特に決めておらず、朝ゆっくりしたい人は無理に起こさない様になっている。喫煙も夜間以外は可能で、指定された場所で自由に吸えるようになっている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備の時間になると自然に台所に集まり、その人その人の能力に合わせ、準備の手伝いをしている。食事の時間にはゆったりとした音楽が流れ、笑い声も響きとても楽しい時間となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴できる。お湯は温泉で神経痛、皮膚炎にも効能があり広い浴室、浴槽でゆっくり入浴を楽しんでいる。男性2名が先に入浴し、その後2名づつ女性が入るのが日常となっている。不穩の人に対しては個人的に対応し、安心して入ってもらえるよう考慮している。ゆったり入浴できのびのびとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションなどでは、牛乳パックで小物作りをしたりカラオケを楽しんだりしている。月1回の「すしの日」には法人内の特別養護老人ホームへ出向き、握ってもらったすしを食べている。個々の生活歴、職歴などを配慮し、畑仕事や裁縫など役割を持ってもらい活力を引き出している。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ホーム周辺の散歩をしている。1日おきに食材の買い物へ近くのスーパーに出かけている。花屋にも出かけ、自分の好きな花を購入しホーム内に入居者が個々に自由に生けている。月1回ドライブに出かけ外食している。年1回は家族にも希望をとり宿泊で旅行にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的には日中は玄関の鍵は開放している。離設行為の傾向がある人には、法人内の施設にも声をかけ連携をとっている。離設された場合、早急に対応できるよう、入居者の服装を職員は毎朝確認している。地域の住民の方の協力も得られる関係ができています。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年1回地域合同の避難訓練に参加している。年2回の勉強会にも参加し、マニュアルチェック表で日々点検している。年1回消防署の立ち入り検査も受けている。また、家具の配置に気を配り、耐震対策を心がけている。</p>		<p>今後、さらにグループホーム独自でも避難訓練を行い、災害時に入居者と職員が冷静、迅速、安全に避難ができるよう、様々な状況を想定した訓練への取り組みを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は職員が毎日2週間後の献立を1日分ずつ作成している。法人内の管理栄養士に点検してもらい、バランスの良い食事となっている。一人ひとりの食事、水分の摂取量も把握している。体調の悪い時には、おかゆなどの配慮もされている。ホーム内の畑で収穫した野菜も取り入れ、季節感のある献立を考えている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間には畳、こたつがあり寛げるスペースになっている。壁には思い出の写真やレクリエーションで作った作品、季節の花が飾られている。暖かな日差しのさし込むリビングから続く外には畑が広がり、季節の野菜が植えられ家庭的な雰囲気があり居心地の良い場所となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>在宅生活に近い環境を作るため入居前に自宅を訪問している。本人の使い慣れたベッド、タンスなどを使用し、在宅生活に近づけ安心した生活が送れるようにしている。居室には家族の写真、自分の作品などを飾り、その人らしい居室づくりがされている。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。